

演 題 名：和牛の下顎にみられた骨化性線維腫

発 表 者 名：○仲間京子 大場三緒子 森河隆史 富永正哉

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

牛の下顎部に発生する腫瘤には、放線菌症やアクチノバチルス症などの感染症による肉芽腫性炎や線維腫、歯肉腫及び扁平上皮癌などの腫瘍がある。今回、当検査所において下顎に骨組織を多く含んだ腫瘤を認める症例に遭遇したので、その概要を報告する。

2. 材料及び方法

症例は平成 20 年 5 月に当所管内 A 食肉センターへ病畜として搬入された黒毛和種、19 ヶ月齢の去勢雄であった。病歴は添付された診断書によると、平成 19 年 12 月に放線菌症と診断、半年後、下顎部腫瘤の腫大により採食困難となり予後不良と診断され搬入された。生体検査では下顎部にハンドボール大の腫瘤を認めた。

採材した腫瘤を 10% 中性緩衝ホルマリン液で固定、ギ酸で脱灰した後、常法により組織切片を作成し HE 染色を行った。また、アザン染色、鍍銀染色のほか、抗ヒトビメンチンマウスモノクローナル抗体（ニチレイ社）及び抗ヒト S-100 タンパクウサギポリクローナル抗体（ニチレイ社）による免疫染色を行った。

3. 結果

- (1) 肉眼所見：左下顎部に認めたハンドボール大の腫瘤は、乳白色で凹凸があり、硬結感を有し、一部自潰していた。断面は、乳白色で透明感を帯び、白い線維状構造物が交錯しているように見え、中心部から辺縁に向けて石灰化や骨様組織が見られた。辺縁部は赤味を帯びた壊死巣・膿瘍等が、中心部はゼリー状で少量の漿液の貯留が見られた。
- (2) 組織所見：腫瘤辺縁は広範囲に器質化が進み、壊死巣には細菌集塊や炎症細胞の浸潤が多数見られた。その内側には、束状から渦巻状に増殖した腫瘍細胞を認めた。腫瘍細胞は、類円形から紡錘形の明るい核と紡錘形で好塩基性の細胞質を有し、線維芽細胞と類似していた。腫瘍細胞の核は異型性が低く、分裂像は認められなかった。間質には線維性結合組織が増生し、骨芽細胞に取り囲まれた不整形骨梁、血管の新生が多数見られた。また、増生した結合組織はアザン染色で青色、鍍銀染色で赤紫色を呈したことから、膠原線維であることを確認した。さらに、腫瘍細胞は免疫染色でビメンチン陽性及び S-100 タンパク陰性であった。

4. 考察及びまとめ

本症例は、組織学的に線維芽細胞に類似した腫瘍細胞と膠原線維が増生し、不整形骨梁の形成を認めたこと、免疫染色によって神経組織由来の腫瘍は否定されたことから、骨梁形成の多い線維腫と考えられた。線維腫における骨の形成は、線維芽細胞が骨芽細胞へ転換することによりおこる間葉性組織の化生と考えられている。

以上のことから、今回の症例は骨化性線維腫と診断し、頭部の一部廃棄を行った。